

平成29年度 第2回呉市地域公共交通協議会

- 議 事 要 旨 -

日 時：平成30年2月13日（火）10時00分～11時25分
場 所：呉市役所本庁舎7階 758会議室

1 開 会

2 会長挨拶

3 報 告

- ・呉市地域公共交通網形成計画の策定について（経過報告） 【資料1】
- ・エアポートバス（呉広島空港線）について 【資料2】
- ・安浦地区生活バスと広島電鉄（株）路線バスとの川尻小用入口での乗り継ぎ改善について 【資料3】
- ・モビリティ・マネジメントの実施について 【資料4】

4 その他

5 閉 会



呉市地域公共交通網形成計画の策定について（経過報告）

発言者	発言要旨
■資料1，資料1－2について事務局より説明	
小松会長	質疑等があればお願いします。
山岡委員	川尻地区で自治会が主体となって，地域住民の利用促進・啓発活動が行われているというところで，今後公共交通が重要になってきて，維持するためには利用してもらわないといけない。このような活動は重要になってくるが，具体的にはどのような活動をされているか。
野呂山タクシー 尾松部長	川尻地区においては，自治会の集まり等で生活バスを使ってもらうよう話をしたり，回覧板でも利用を促すよう依頼している。また，地域住民の横の繋がりでも声がけをして利用を促している。
今田委員	安浦地区だけではないですが，スクールバスと生活バスとの重複運行がある。スクールバスというのは，おそらく小学生がメインだと思うが，小学生以外の中学生，高校生や一般の方も利用できよう一本化することができるか。
事務局 (尾下交通 政策課長)	呉市の場合，路線バスを利用できる状況であれば路線バスを利用いただき，定期代は呉市が補助をしている。路線バスで対応できない部分について，スクールバスが補完をしているという状況である。現在，スクールバスに生徒以外が一緒に乗るということはない。今後，検討は必要であると思う。
今田委員	安浦地区について，グリーンピアの方向へ運行するバスの利用が少ないとのことである。以前は，グリーンピアが送迎バスを運行していたが，現在はどうか。もし運行していたら生活バスとの統合は可能か。
事務局 (尾下交通 政策課長)	安浦駅とグリーンピアを結ぶ定期的な送迎バスはある。ほかにも病院など色々な送迎バスがあるが，今のところ路線バス等と統合するということはない。事業者からすれば，無料の送迎バスがあるとそれにお客様が流れてしまうので，路線バスに乗ってもらうためには出来るだけ控えていただきたいという思いもある。送迎バスについては，お客様サービスの一環であり，統合については実現していない。
今田委員	バス停間の移動人数が見にくい。この図も非常に重要ではあるが，バス停間の利用人数を示されると非常によく分かるのではないかと思う。
事務局 (尾下交通 政策課長)	図については，分かりやすく示せるように考える。
今田委員	JR の駅における，バスと鉄道との連携，生活バスと路線バスとの連携を示してはどうか。乗り継ぎが悪いから利用しないというのもあるので，乗り継ぎについて具体的に示してもらいたい。例えば新広駅では，国道にバス停はあるが，駅の中にはバスが入ってこない等の乗り継ぎを考えてもらいたい。当然，統廃合も必要であるし，減便も考えないといけないと思うが，公共交通機関同士の乗り継ぎが重要であると思う。

事務局 (尾下交通 政策課長)	駅への乗り入れについては、乗り入れることによって乗り継ぎの観点からすれば便利になるが、乗っているお客様からすれば遠回りになるなどの問題がある。結節点になる駅については乗り入れを検討していきたい。
今田委員	広島電鉄とジェイアールバスとの調整についても検討してはどうか。
事務局 (尾下交通 政策課長)	広島電鉄とジェイアールバスとの競合区間があるので調整、検討していきたい。パスピーの機能向上ということで、区間が一緒であれば会社が違っても定期を使用することが出来るようになるため、そのような機会を捉えながら調整を働きかけていきたい。
今田委員	住民にどのような情報を提供するかというのが重要であると思う。この後、安浦地区についての説明があると思うが、住民にバスの時刻表をどのように情報提供しているかというのが課題である。この時刻表はごちゃごちゃしているので、単に各世帯に配るだけではうんざりしてしまうのではないかと思う。何時のバスに乗るとどこに行けるのかなど、その地区の人に分かりやすい時刻表が一番重要であると思う。日本のほとんどの都市がバスで悩んでいるが、細かい情報提供をしてくまくいっているという事例も多々聞くので、そのような工夫も必要であると思う。
事務局 (尾下交通 政策課長)	先ほど例に挙げられたバスの時刻表は、確かに分かりにくい点がある。わかりやすい時刻表に改善していきたい。安浦地区では、1台の車がどう運行するかを示したものであるため、住民の利用しやすさを踏まえ改善していきたい。また、安浦地区ではまちづくり協議会がわかりやすい時刻表を作成していた。そのような形のものを継続できるようにやっていくことができればいいのではないかと考えている。
今田委員	今後人口が減少していくが、人が行きたい場所にバス停の位置を検討する必要があると思う。将来的には、買い物の際に重たい荷物をもって移動しなくて済むように、目的地の近くにバス停留所の設置を検討することも必要であると思う。
委員 (広島運輸 支局 重長運輸企 画専門官)	資料に記載しているスケジュールについて、1月頃から運輸局認可申請として示されているが、公共交通網形成計画については、送ることによって法的効力を生じることになる。例えば、年度末に最終的な計画案が出来ると思うが、3ヶ月間を利用者意見の反映に使ってもいいのではないかと思う。 収支率15%を一つの目安として設定しており、具体的には16ページの赤丸で示されているが、運行形態が変わる場合には、利用者に分かりやすい情報提供をお願いする。検討するに当たっても、そのような視点を入れていただきたい。
小松会長	アンケートはもちろんのこと、パブリックコメントだけでなく、地域ごとの住民説明会も検討している。
西川委員	公共交通網形成計画を作成する上で、色々な課題を説明いただいたが、今後計画を作っていくには、その先の再編計画をどのようにやっていくのかを念頭に入れて計画を作っていかなければいけない。スケジュールで言えば、平成30年度末に計画を策定ということであるが、再編実施計画を見据えて計画を作るのであれば、このスケジュールでできるものなのかと思う。相当突っ込んだ議論をしていかなければ難しいのではないかと思う。今後の課題整理でお願いしたいのが、今回、安浦地区での乗り継ぎのポイントを改善されると資料に載っていたが、あらゆる所で乗り継ぎの改善が必要であると思う。ポイントを決めていくという作業

	<p>も必要であると思う。先ほども少しあったが、広島県では、ICカードの機能向上が今年度中に完成する。幹線と支線の乗り継ぎ割引ができるという環境が整備されるので、そういったものを活用した路線作りも必要ではないかと考える。路線バスが競合するエリアについても、共通定期というものが導入できるので、そのようなもので利便性の向上と併せて、利用促進に繋がる方策を盛り込んでいただきたい。</p>
事務局 (尾下交通政策課長)	<p>計画を作って終わりではなく、再編するというのが目的であるので、それを念頭に策定していきたい。結節点について、色々な路線が重複し、供給が超過しているところは、便数を減らし、結節点を設けて、その先を便利よくするような形での再編になってくると思う。その際には、ICカードの乗り継ぎ割引も念頭に置いて計画を作っていきたい。</p>
委員 (広島県地域力創造課寺口主事)	<p>今年度基礎データをまとめて、来年度計画を策定していくということで、この度バスについて報告をいただいたが、航路についても対象範囲であることから、航路についても経過報告をいただけるか。呉市では、バスが主要な交通機関ということで、これを中心に検討しており、全体的な計画を策定するに当たって、生活交通の赤字部分についての議論が中心になっている。呉市は観光についてもかなり力を入れているので、企画券というのにも計画に位置づけて、観光需要を取り込むような計画を策定していただきたいと思う。</p>
事務局 (尾下交通政策課長)	<p>航路について、もちろん計画の中には生活航路や離島航路についても、事業者聞き取りをし、住民の意見を聞きながらとりまとめていきたいと考えている。観光需要の取り込みについて、これも計画の中に取り込んで参りたいと思う。</p>
小松会長	<p>委員の皆さんからいただいた意見を踏まえて、例えば JR の駅を降りてその後の利用実態がどうなのかデータが不足しており、地区ごとの資料になっているので、改めて資料を提供させていただきたいと考えている。したがって、先ほどのスケジュールでは、年2回の開催予定となっておりますが、頻繁に開かせていただく必要があるのではないかと考えている。</p>
八木委員	<p>事業者からの立場ですが、今後いかに呉市の交通体系を維持していくかということ踏まえて再編していくかということが目的であると思うので、路線の再編においては、お客様が快適に待っていただける結節点整備と乗り継ぎ割引制度が相まって、乗り継ぎのハードルを下げるとというのが再編の一つのステップとなると思う。特に広地区などでは、不自由な点があるので、インフラの整備も含めて整備をしていただきたいと思う。生活交通と路線バスの議論をされているが、路線バス同士で競合しているところがあり、特に小仁方から広駅間であるとか、広島までのとびしまライナーもあるが、今後路線を限られた資源で維持していくかについては、路線の整理も含めて事業者間のとったとられたという議論ではなくて、その辺も含めて計画の中で将来のあり方を議論していただきたいと思う。先ほど事務局から話があった、ジェイアールバスと広島電鉄の黒瀬方面について、これまで呉駅については乗り場が違ったが、昨年12月から乗り場を統一した。ただ、それ以外色々と制約があって、停車停留所であるとか優待証について整理できていない。その辺についてもできる限り整理をして、維持できるように検討して参りたいと思う。ジェイアールバスと広島電鉄は国道375号線の一部で競合している。ジェイアールバスの375号線経由の西条線については、東広島市の公共交通網形成計画や再編実施計画の中で一部先行して議論が進められてい</p>

	る。それも踏まえて議論していただくことをお願いしたい。
--	-----------------------------

エアポートバス（呉広島空港線）について

発言者	発言要旨
■資料2について、事務局より説明	
小松会長	質疑等があれば願います。
今田委員	呉駅発で次に停まるのは阿賀駅か。それから東広島呉自動車道を走行していくということか。
事務局 (尾下交通 政策課長)	本通3丁目は停まる。なお、朝の始発から4便目までと空港から帰ってくる最終までの4便はクレイトンベイホテルを起終点としている。したがって、早い便はクレイトンベイホテル～呉駅～本通3丁目～阿賀駅と停まっていく。
今田委員	東広島呉自動車道が出来るまでは、黒瀬の方や郷原の方でバス停があったように記憶している。出来るかどうか分からないが、黒瀬辺りでも乗っていただくということも考えられるのではないかと思う。山陽自動車道にしても中国自動車道にしても、その付近の人が乗れるバス停がある。東広島呉自動車道にもそういったものが出来るかどうか。もし出来るのであれば、黒瀬地域の人にとっては1つ交通手段が増えると思う。
事務局 (尾下交通 政策課長)	この件について、平成25年度に再開する前は、呉市交通局が運行していた。東広島呉自動車道が出来たときにどうするかということで、自動車道に停留所を設けられるのであれば、そういう形でできると思うが、片側1車線であるためバス停を設けることができないということだった。そのほかに検討したのが、インターチェンジで降りた所にバス停を設けたらどうかという案もあったが、降りるのを忘れて、降りてみなければお客様がいるかどうか分からないなどのリスクがあり、検討を重ねた結果、東広島呉自動車道に入ってからノンストップという形をとっている。今後は、東広島呉自動車道を通らない便が可能かどうか考えてみたいと思う。
八木委員	運行事業者として、広島県バス協会等で訪日外国人に向けたフリーチケットをやっている中で、その中で呉をモデルケースとしたルートを掲示している。今後は事業者として、地元の方に利用していただくだけでなく、訪日外国人の方が呉を経由して広島に行き、その後宮島に行ってから空港に戻られるなどというようなことについても利用促進に努めて参りたいと思う。

安浦地区生活バスと広島電鉄（株）路線バスとの川尻小用入口での乗り継ぎ改善について

発言者	発言要旨
■資料3について、事務局より説明	
小松会長	質疑があれば願います。
一同	特になし。

モビリティ・マネジメントの実施について

発言者	発言要旨
■資料4について、事務局より説明	
小松会長	質疑等があればお願いします。
山岡委員	このようなモビリティ・マネジメントは非常に重要であると考えている。今後都市計画の方で、立地適正化計画を検討されているが、コンパクトな都市を作るといふ方向に向かっていく中で、交通というのは重要になってくる。そもそも使っていたらなければ維持できないということで、こういう活動は重要であると考えてるので、公共交通網形成計画ができた後も引き続きやっていただきたいと思う。
事務局 (尾下交通 政策課長)	乗り方教室は、計画を策定するために行うわけではないので、今後も運輸局等と連携しながら実施して参りたいと考えている。
山岡委員	参加される方について、呉工業高等専門学校で行われるものは、平日でもあり、どちらかというと高齢者向けだと思う。これから行われるということで、どのような方たちが来られるか分からないが、そういう場でアンケートを採ると、サンプルの属性が偏る可能性があると思っている。高齢者だけではなく、色々な方々の公共交通に対する思いなどを捉える必要があると思う。サンプルの属性しだいでは、公共交通網形成計画を作る参考資料として、別の方法で意見を集める必要があると感じている。次回協議会で結果を教えていただけたらと思う。
小松会長	アンケートだけでなく、地域に出向いて意見を聞く機会も必要であると思う。それであったら別の世代の人も来られるので、それもあわせて結果を報告したいと思う。

- その他 -

発言者	発言要旨
小松会長	ほかに何かあればお願いします。
今田委員	これは非常に困難なことですが、自動運転というのが色々研究されています。日本のいくらかの都市では、社会実験で無人のバスが走っている。将来的には呉にも入ってくると思う。自動運転についても情報を収集されていればご教示願う。
事務局 (尾下交通 政策課長)	平成28年度に実証実験に応募したが、落選した、研究は引き続き行っている。
小松会長	ほかに何かあれば。無いようなので、これで閉会とさせていただきます。